



## 2004 年度後期

# 「学生による授業評価アンケート」全学集計結果

発行：法政大学FD推進センター 2005 年 5 月

### 学生による授業評価アンケートの概要

法政大学では、前期に引き続き、後期も「学生による授業評価アンケート」を実施しました。アンケートの対象となったのは、11 の全学部、大学院修士課程、専門職大学院（アカウンティングスクールを除く）、通信教育部のスクーリングで開講された後期科目および通年科目です。ただし、アンケートが適当でない判断された科目は実施していません。

アンケートは、市ヶ谷、多摩キャンパスでは 12 月、小金井キャンパスでは 12 月から 1 月にかけて実施されました。大学全体では、延べ 4,616 科目、143,814 の回答がありました。アンケートにご協力いただいた学生、大学院生の皆さんに感謝いたします。アンケートは、すべてデータとして処理され、別にタイプされた自由記述と共に各教員に通知されています。なお、教員は学生の皆さんが記入したアンケート用紙そのものを見ることはできないことになっています。

### 授業評価アンケートのねらい

大学は、学生に対して質の高い教育と人間形成の場を提供する責務があります。これまで教育は、教員の自主性に委ねられてきました。しかし、法政大学では、教員個人の努力に加えて、学部等が組織的に教育内容や方法の改善に取り組む必要があると考え、2003 年 11 月に「全学 FD 推進委員会」を設置しました。FD とは、「ファカルティ・ディベロップメント」(Faculty Development) の略称で、授業方法や内容を組織的に改善していくことを指します。

「学生による授業評価アンケート」を実施したのには、二つの大きな目的があります。一つは、教員が自分の授業をどのように受け取られているかを知ることです。もう一つは、アンケート結果を分析して、学部等の授業内容や授業方法の改善に役立てるためです。いずれも、大学の教育の質を向上させようというねらいがあります。

学生による授業評価は、すでに国内の大学では広く行われています。文部科学省のまとめでは、2003 年度までに学生による授業評価を実施した大学は、国立大学 96 (99%)、公立大学 68 (89%)、私立大学 469 (89%) で、全体では 633 大学 (91%) に上ります。

### アンケート結果の活用について

2005 年 4 月からは、「全学 FD 推進委員会」に代わって「法政大学 FD 推進センター」が設置されました。このセンターは、FD 活動を推進してだけでなく、研究科、学部、学科といった単位での FD 活動も支援していくことになっています。

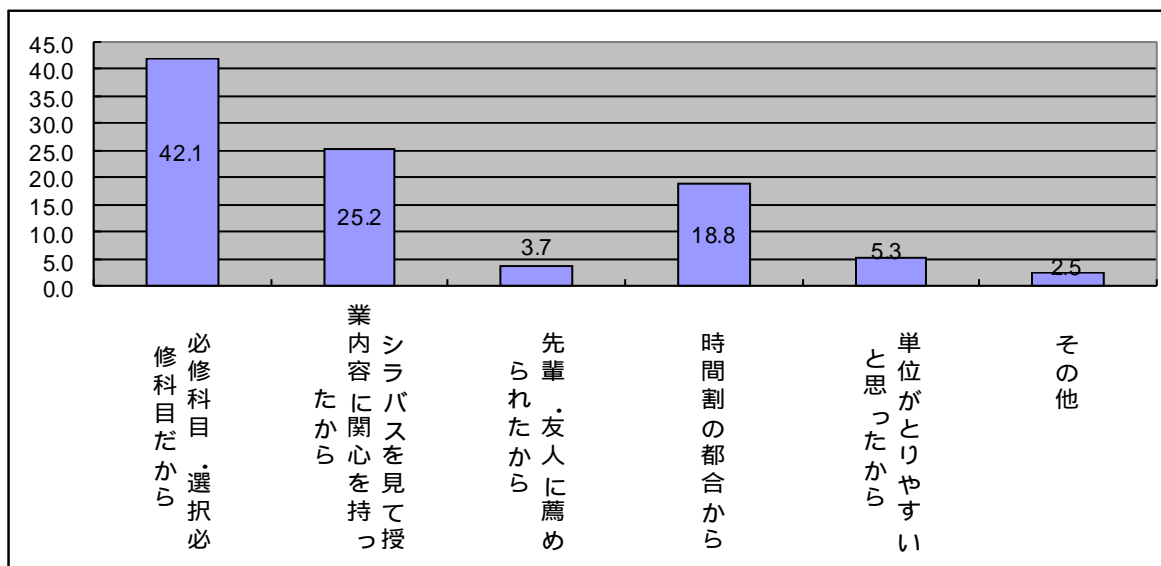
アンケート結果は、すでに担当教員に通知されています。回答してくださった皆さんの声が無駄にならないように、センターでは、教員が持つ授業のノウハウやテクニックを互いに共有できる仕組みを作っていきます。目に見える効果が表れるまでには、しばらく時間がかかると思いますが、学生の皆さんのご理解をいただきたいと思います。

## 全学集計結果 (2004 年度後期)

### 1. 履修の理由 - 「時間割の都合」と「シラバスの授業内容」から

授業を履修した理由（複数回答可）は、前期アンケート結果とほぼ同じ割合になった。「必修科目・選択必修科目だから」（42.1%）が最も多く、「シラバスを見て授業内容に関心をもったから」（25.2%）「時間割の都合から」（18.8%）が続く。「単位がとりやすいと思ったから」という回答はわずか 5.3% しかなく、時間割とシラバスが履修決定に大きな役割を果たしていることがわかる。

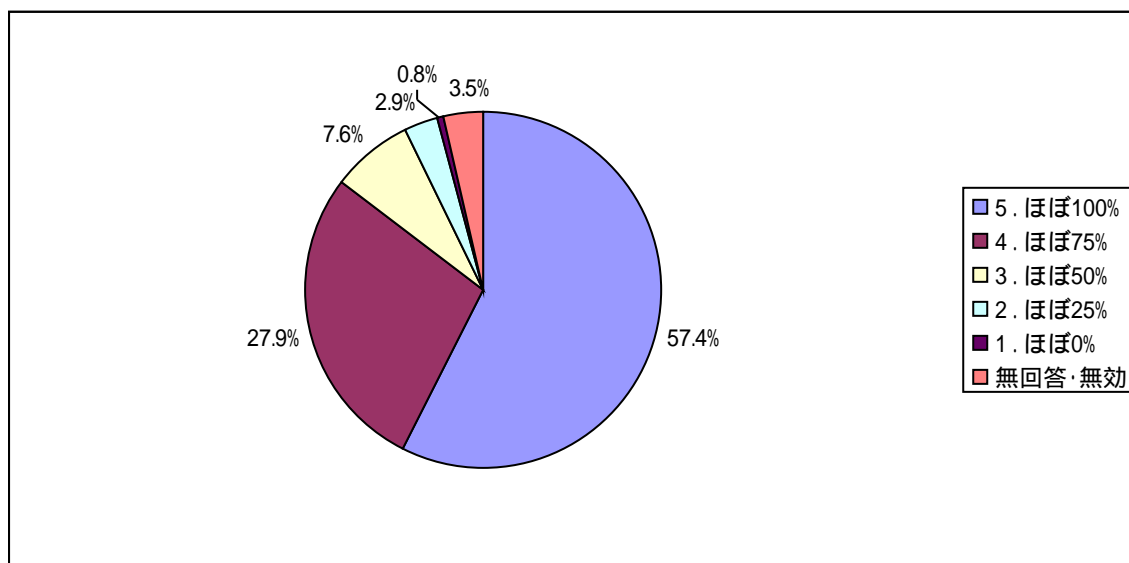
#### 問 1. この授業を履修した理由を教えてください（複数回答可）。



### 2. 授業への出席 - 回答者の出席率は高い

「ほぼ 100%」と「ほぼ 75%」を合計すると 85.3% になり、アンケートに答えた学生の出席率は総じて高い。

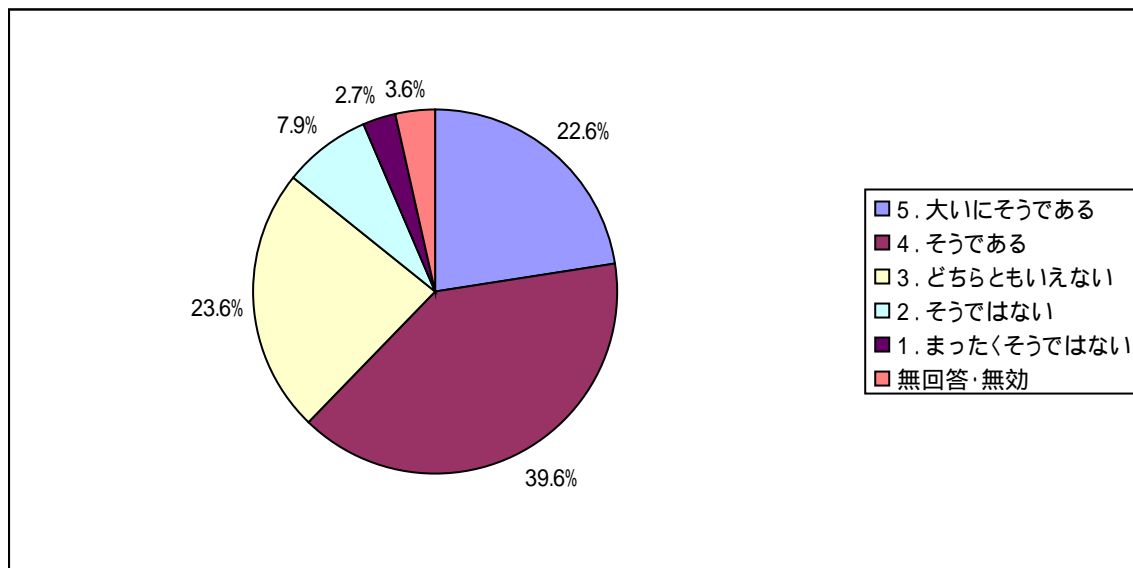
#### 問 2. あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。



### 3. 授業への取り組み - 出席率と相関あり

全体では、約 6 割の学生が授業に積極的に取り組んだと回答しており、前期とほぼ同じ結果が得られた。出席率別に見ると、出席率が高いほど積極的に取り組んだと回答する割合も高くなっている。

#### 問 3. あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか。

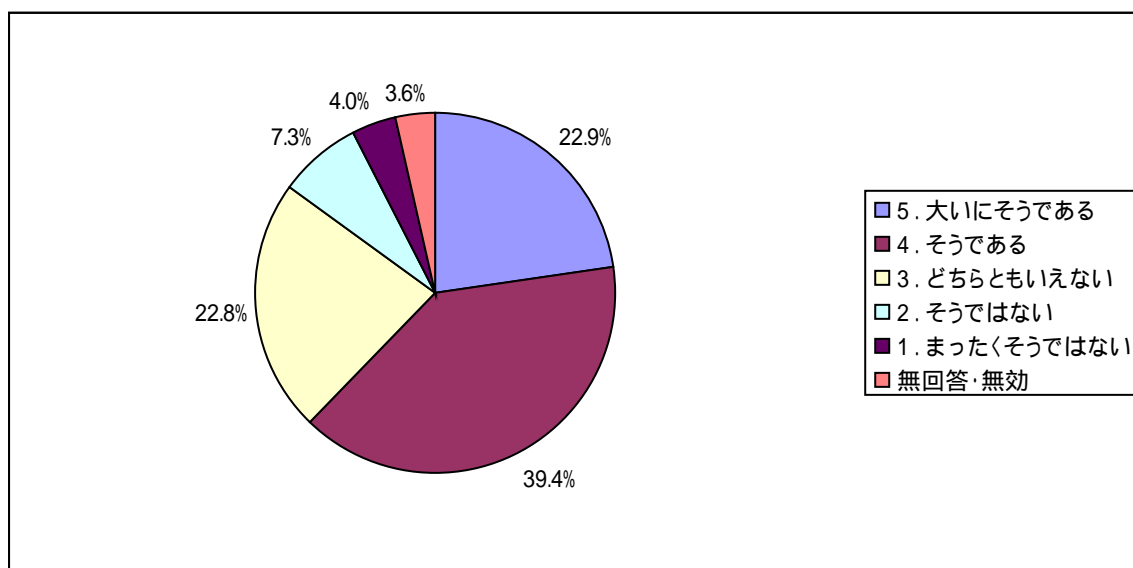


### 4. 興味が持てる授業が 6 割を超す

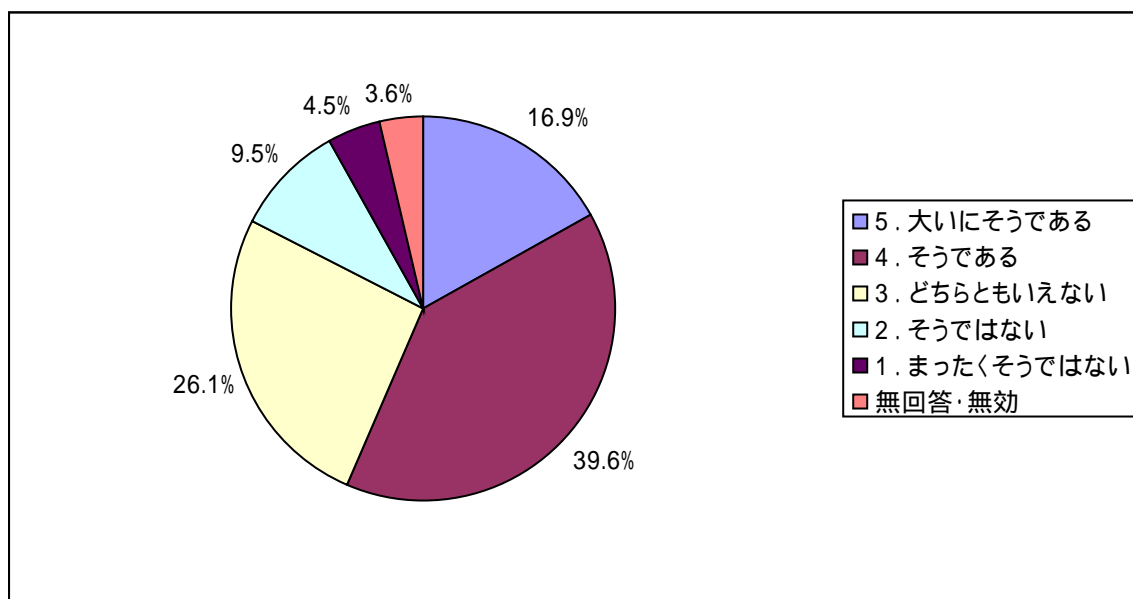
#### 5. 内容理解は半数止まり

授業内容への興味は、「大いにそうである」と「そうである」と回答した学生の割合が、前期は 58.7%であったが、後期は 61.3%になった。一方、授業内容を理解したと回答した割合は 56.5%であったが、75%以上授業に出席した学生に限っても、その 4 割は授業内容を理解できたとは思っていない。

#### 問 4. この授業の内容に興味を持ってましたか。



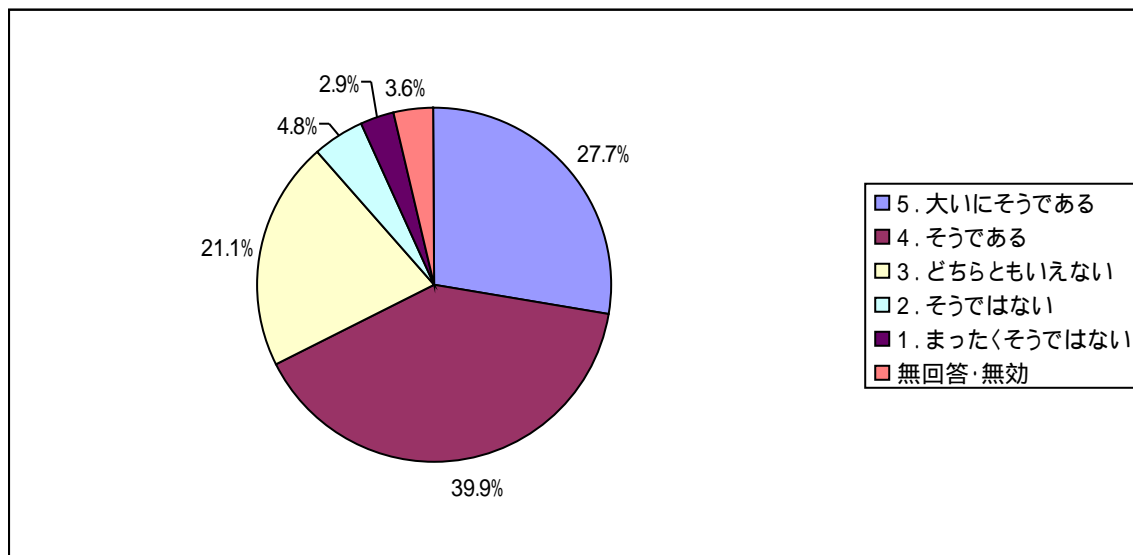
### 問5. この授業の内容は理解できましたか。



### 6. 7割近くの教員に熱意あり

「大いにそうである」(27.7%)と「そうである」(39.9%)を合わせると、67.6%の科目で教員の熱意が学生に伝わっている。一方、熱意が感じられないと学生が判断した科目は、前期の10.1%から7.7%とわずかながら後退した。

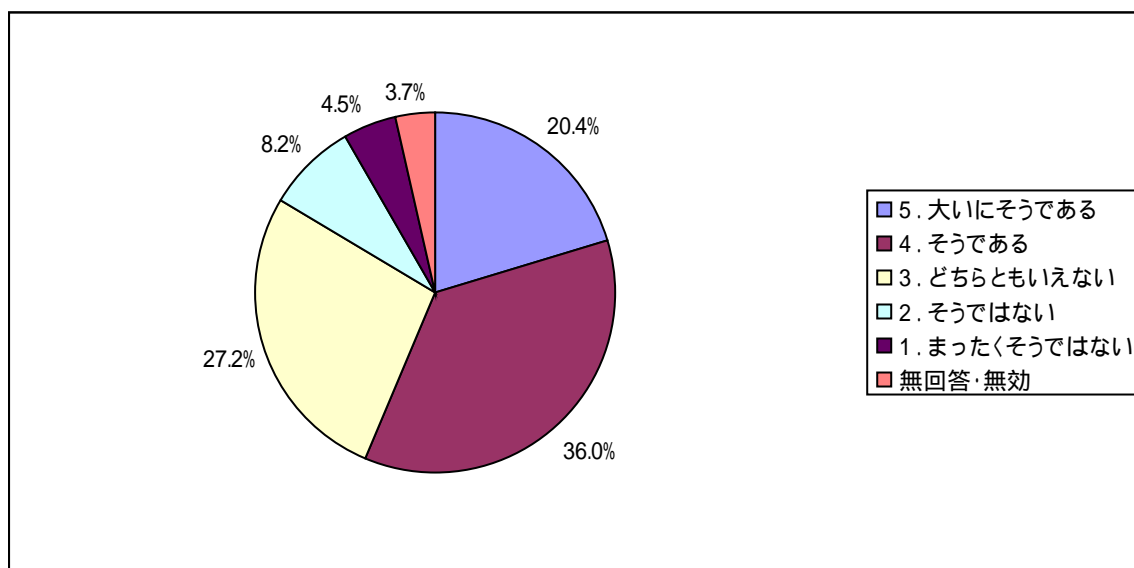
### 問6. この授業の教え方は熱意が感じられるものでしたか。



### 7. 授業のわかりやすさ - 1割超はわからない授業

わかりやすさは、教え方の一つの指標である。内容の難易にかかわらず、学生にわかるように伝えるのが教員の技術である。アンケートの結果、56.4%はわかりやすい授業であった。一方で、12.7%の授業はわかりにくい授業であり、教え方について何らかの改善をする必要がある。

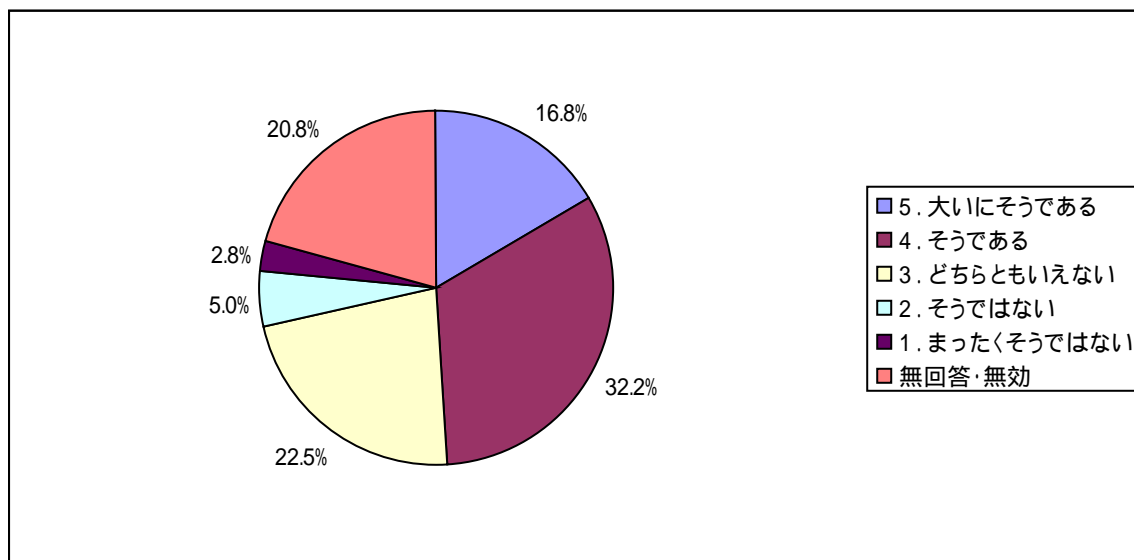
**問7. この授業の教え方はわかりやすく工夫されていましたか。**



**8. 使用教材 - 4割は適切と感ぜられず**

無回答・無効の 20.8%を除くと、使用教材が授業の内容理解に適切と回答した割合は、およそ6割で、4割の授業では適切と感ぜられていない。授業にほぼ75%以上出席した学生に限っても、この割合は変わらない。

**問8. 使用教材はこの授業の内容を理解するのに適切でしたが(教材を使用していない場合は回答しなくてよい)**



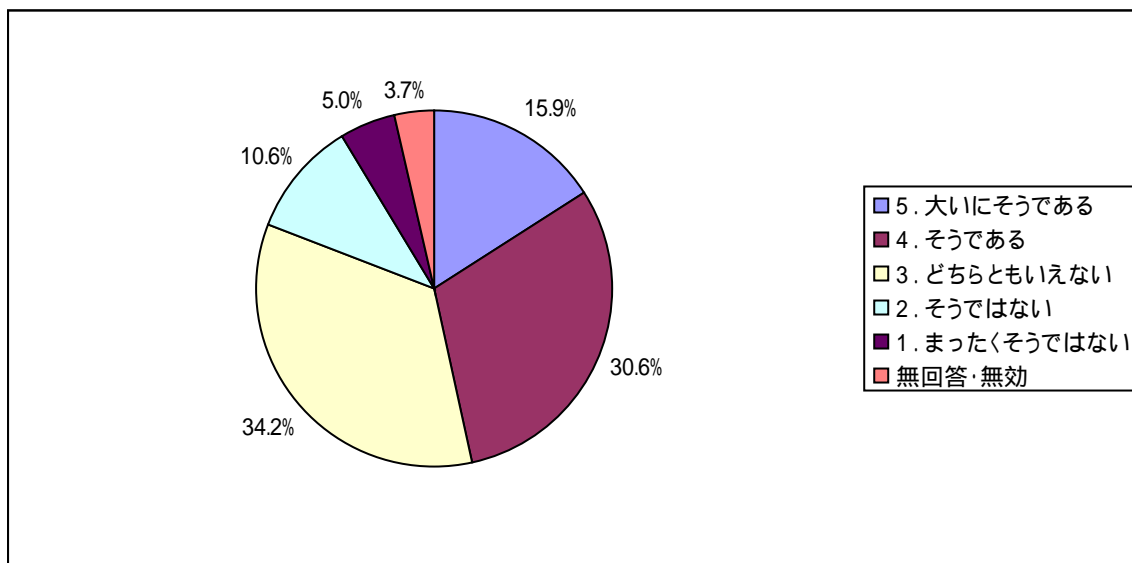
**9. ほぼ半数の授業が学生の参加意欲を促す**

全体では、「大いにそうである」と「そうである」を合わせると、46.5%の授業が学生の参加を促している。科目種別に見ると、実技では先の割合は7割を超えるが、参加が前提となるはずの演習では56%、語学では52%に留まる。また、教員が一方的に話すことが多い講義科目でも、12%の学生は「大いに」参加意欲が促されたと回答している。

「まったくそうではない」と「そうではない」と回答した割合は、全体では15.6%である。演習で

は、約 1 割の学生が参加意欲を持てず、実験では 12%、語学では 13%に上る。

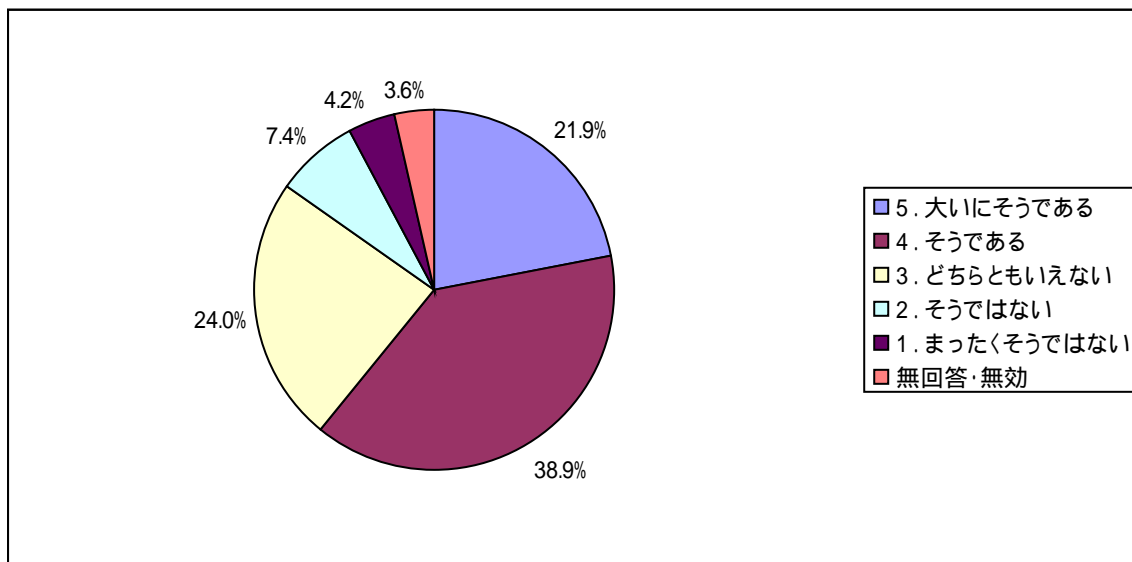
**問 9 . この授業では学生の参加意欲が促されるような工夫がなされていましたか。**



**10 . 授業の満足度 - 6 割が満足**

授業の満足度は「大いにそうである」と「そうである」を合わせると、前期は 56%であったが、後期は 61%であった。また、「まったくそうではない」と「そうではない」を合わせた不満足度は、前期が 15%であったのに対し、後期は 12%であった。満足度は、受講生の側から見た一つの指標である。学生の不満を教員が知り、授業の改善につなげることができれば、満足度も上昇すると考えられる。

**問 10 . この授業は総合的に見て満足できるものでしたか。**



**アンケートに関するご意見・お問合せ先**

お問合せ窓口：法政大学 FD 推進センター事務室

TEL 03(3264)9929 / FAX 03(3264)9876 / E-mail : kyogaku@hosei.ac.jp